

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-3

<29週> 無菌性髄膜炎 - 定点当たり報告数は再び増加し、1999年からの3年間の平均の3倍を超えた / その他最新動向



注目すべき感染症
P.4

<急性A型肝炎> 中国(大連)への渡航者における急性A型肝炎の集団発生



病原体情報
P.5

患者から分離・検出された病原体報告 - Vero毒素産生性大腸菌 / 無菌性髄膜炎 / ヘルパンギーナ



速報
P.6-7

国内で最初に確認されたA/H1N2型インフルエンザウイルスの分離 - 横浜市



海外感染症情報
P.8-10

ニジェールでのコレラ流行 / ラテンアメリカのデング熱 - 更新 / ウエストナイルウイルスの活動性 - 米国2002年7月17～23日 / 挽肉による複数の州での病原大腸菌O157:H7感染の流行について - 米国2002年6～7月



感染症の話
P.11-12

流行性角結膜炎
現在では職場、病院、家庭内などの人が濃密に接触する場所などでの流行的発生もみられ、感染力は強い



読者のコーナー
P.13



グラフ総覧(29週)
P.14-20



29週のデータ
P.21-28



発生動向総覧

第29週コメント 7月25日集計分

全数報告の感染症

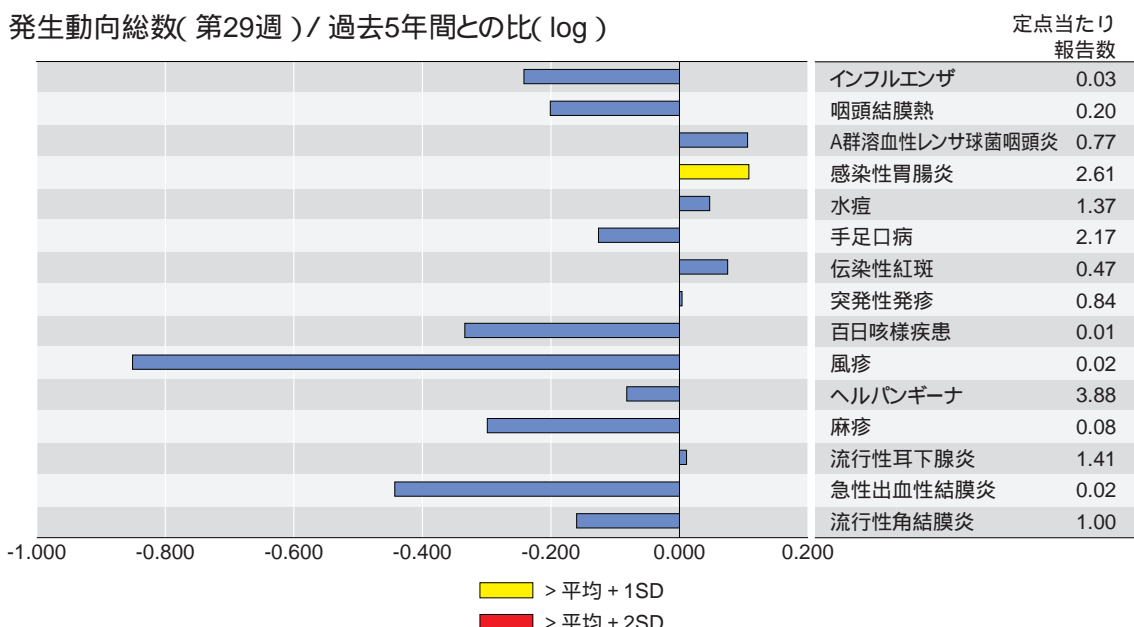
- 1類感染症: 報告なし
- 2類感染症: コレラ1例(疑似症。推定感染地: フィリピン) 細菌性赤痢12例(推定感染地: 国内4例、ベトナム2例、ブラジル2例、インドネシア2例、フィリピン1例、スペイン/モロッコ1例) 腸チフス1例(疑似症。推定感染地: バングラデシュ) パラチフス1例(推定感染地: ネパール)
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症112例(うち有症者78例)
- 4類感染症: アメーバ赤痢4例(推定感染地: 国内2例、不明2例) オウム病1例
劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例、ジアルジア症3例(推定感染地: 国内2例、バングラデシュ1例) ツツガムシ病1例、デング熱1例(推定感染地: インドネシア) 日本紅斑熱1例
破傷風2例(54歳、43歳: 創部感染) ライム病1例
急性ウイルス性肝炎9例
 A型5例(推定感染地: 中国4例)
 B型4例(感染経路: 性的接触2例、不明2例)
クロイツフェルト・ヤコブ病2例(ともに孤発性)
後天性免疫不全症候群7例(無症候性6例、その他1例)
 感染経路: 性的接触5例(異性間2例、同性間2例、同性/異性間1例) 不明2例
梅毒6例(早期顕症3例、無症候性3例)
マラリア1例(検査中、推定感染地: ミャンマー)

定点把握の対象となる4類感染症(週報対象のもの)

感染性胃腸炎は緩やかに減少を続けているが、過去5年間の同時期と比べて定点当たり報告数は依然としてやや多く、都道府県別では福井県(5.8) 宮崎県(5.0)からの報告数が多い。無菌性髄膜炎の定点当たり報告数は再び増加し、1999年からの3年間の平均の3倍を超えた。都道府県別では岡山県(6.8)からの報告が急増した外、熊本県(3.3) 滋賀県(2.3)からの報告が多い。

他の疾患の定点当たり報告数は、過去5年間の同時期と比べて特別多くなっているはいない。オウム病以外のクラミジア肺炎が千葉県(0.4)からの報告を反映して、3週間ぶりに定点当たり報告数が増加へ転じている。ヘルパンギーナと手足口病の定点当たり報告数は今週増加が一休みしたが、都道府県別では前者が群馬県(7.6) 千葉県(6.9) 栃木県(6.9) 神奈川県(6.6) 後者が岡山県(6.7) 神奈川県(6.1) 宮城県(5.4) 和歌山県(5.3)と報告の非常に多い県が残っている。咽頭結膜熱も今週は全体としての増加はないが、都道府県別では滋賀県(0.94)で引き続き増加が見られる。水痘は前週から一転して報告数が減少したが、都道府県別では福島県(3.2) 宮城県(3.0) 山形県(2.5)からの報告数が依然として多い。流行性耳下腺炎と流行性角結膜炎は全体の定点当たり報告数に大きな変化はないが、都道府県別で前者が岩手県(4.2) 福島県(3.9) 宮城県(3.9)で多く、後者は宮崎県(6.0)が非常に多い。百日咳、風疹の定点当たり報告数は、全体としては例年よりかなり低い水準を保っている。

発生動向総数(第29週)/過去5年間との比(log)

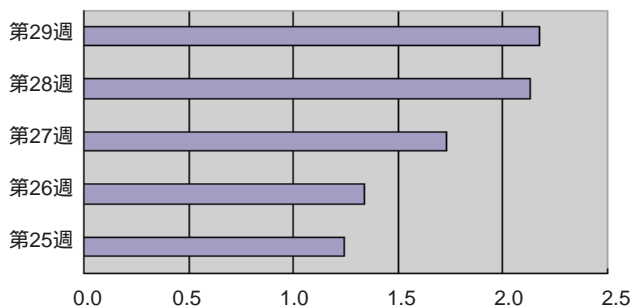


当該週と過去5年間の平均(過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均)の比を対数にてグラフ上に表現した。1標準偏差を超えた場合黄で、2標準偏差を超えた場合赤で色分けしている。

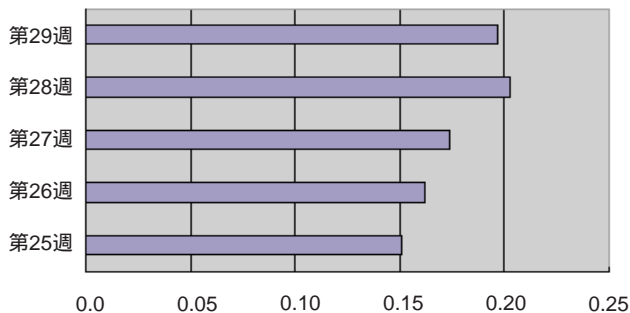
最近の注目疾患－5週間の動き

手足口病の定点当たり報告数は前週に比べてわずかに増加している。咽頭結膜熱、伝染性紅斑、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、水痘、ヘルパンギーナの定点当たり報告数は前週に比べて減少した。

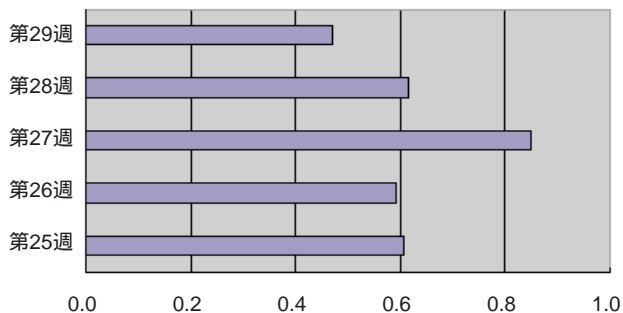
手足口病



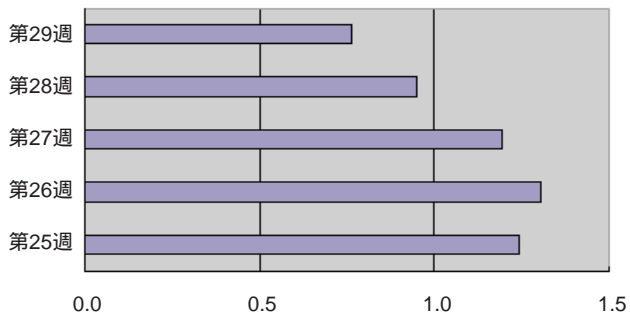
咽頭結膜熱



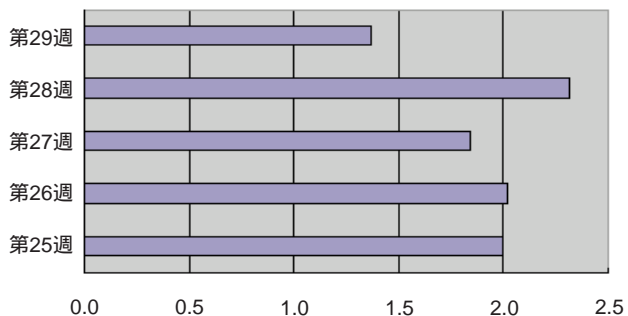
伝染性紅斑



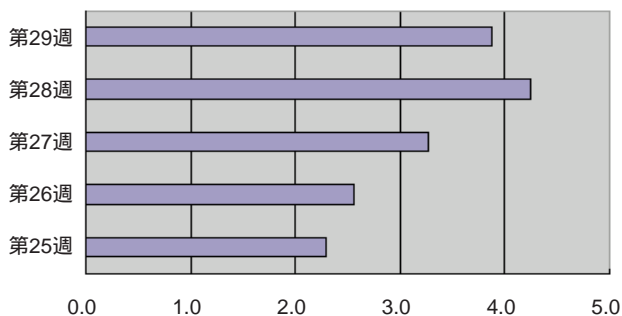
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



水痘



ヘルパンギーナ



(注) グラフの横軸は各疾患の定点当たり報告数(報告総数/定点総数)を表す。疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意。



注目すべき感染症

<急性A型肝炎> 中国(大連)への渡航者における急性A型肝炎の集団発生

2002年第28～29週(7月8日～21日)にかけて、中国、大連市への渡航者から現在までに30～50歳代の男性4名の急性A型肝炎患者の報告があった。他にもこの地域と関連した感染者がいる可能性がある。

大連を含む東南アジアの都市などに日本人医師を派遣している財団法人海外邦人医療基金からの情報によれば、大連市郊外の日系企業などの工場が集中している開発区において、7月第2、3週の期間に8名の日本人が急性A型肝炎と確認されている。現地では飲食店が感染場所として疑われているが、明確な因果関係は確認されていない。現在までのところ、その後の現地での患者発生は確認されていないとのことであるが、今後とも注意が必要である。

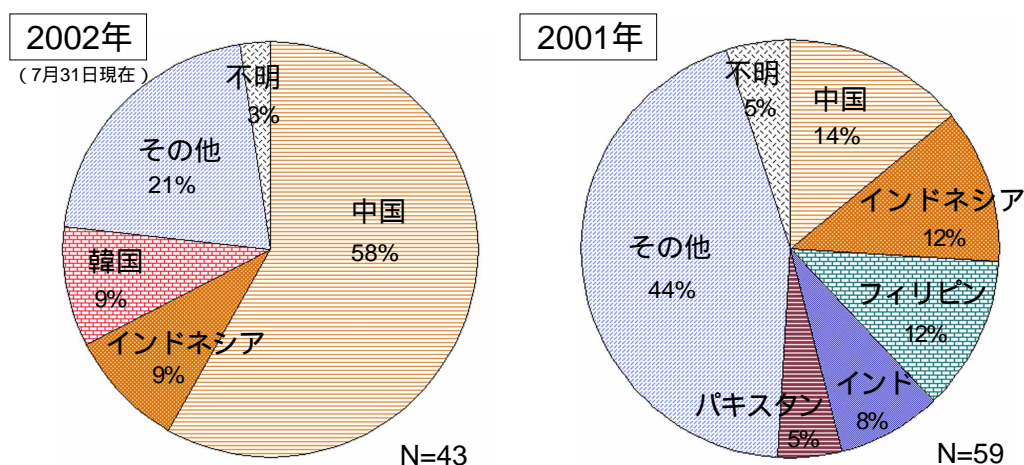
急性A型肝炎は、比較的熱や酸にも強いA型肝炎ウイルスにより主に経口的に感染する。乳幼児は感染してもその多くは発病しないが、大人では全身倦怠感や黄疸を伴う急性肝炎を発病することが多い。我が国では、衛生状態の改善により、40～50歳代以下の年齢ではほとんどの人が抗体を持っていないため罹患する危険がある。中国を含めた開発途上国を中心に、多くの国々がA型肝炎の蔓延地域となっている。図に昨年及び今年7月31日までの報告例のうち推定感染地が海外のものの内訳を示す。我が国の報告例では国内感染が8割以上を占めているものの、海外感染例の数はすでに今年43例に上っている。中国、インドネシアなどのアジアでの感染例が多いが、欧州、米国などでの感染が疑われている例も報告されている。

治療は保存的治療が主体であり、自然軽快が期待できるものの、特に50歳以上では劇症化することもある。また、潜伏期間が平均28日間と長く、原因を特定することが困難であることも多く、潜伏期間中、無症状でも便などからウイルスを排出し感染源となりうるため、迅速な感染源の特定が不可欠である。

予防としては、食品が高温で十分に加熱されればウイルスの死滅が期待できるものの、調理後の汚染や生食の普及などから完全でない場合もあり、A型肝炎ワクチンによる免疫の付与が確実な方法である。

我が国でのA型肝炎の実態把握は、届け出された例の解析により可能となるため、診断した医師による迅速な届け出の励行が望まれる。

推定感染地が海外として報告された急性A型肝炎



国別報告数が2例以下の場合はその他とした。
国外での感染であっても、国名の記載のないものは不明とした。



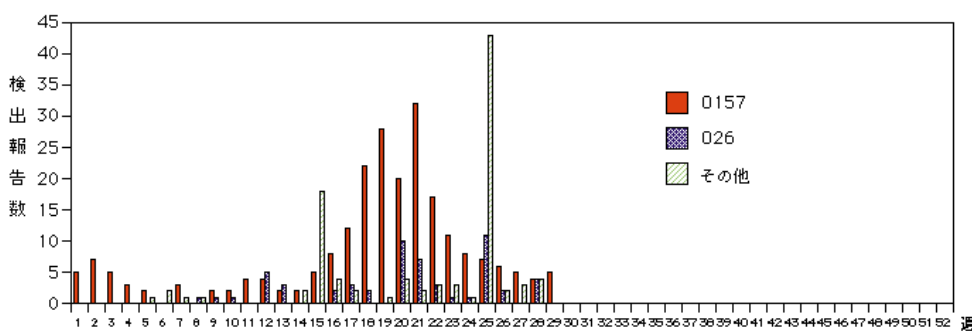
病原体情報

*グラフはIASRホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html>)からの引用です。
(2002年7月26日現在報告分)

ヒトから分離されたVero毒素産生性大腸菌 2002年

検出総数は385件で、うちO157が231件(兵庫県36、大阪府34、佐賀県26など)、O26が57件(佐賀県14、宮城県7、島根県6など)、O111が56件(佐賀県50など)、O121が23件(全て佐賀県)、その他の血清型が18件である。最近では、O157が第28週に佐賀県4、第29週に大阪市3、佐賀県2、O26が第28週に佐賀県2、秋田県1、福島県1の分離が報告されている。

週別Vero毒素産生性大腸菌検出報告数、2002年 (病原微生物検出情報: 2002年7月26日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。



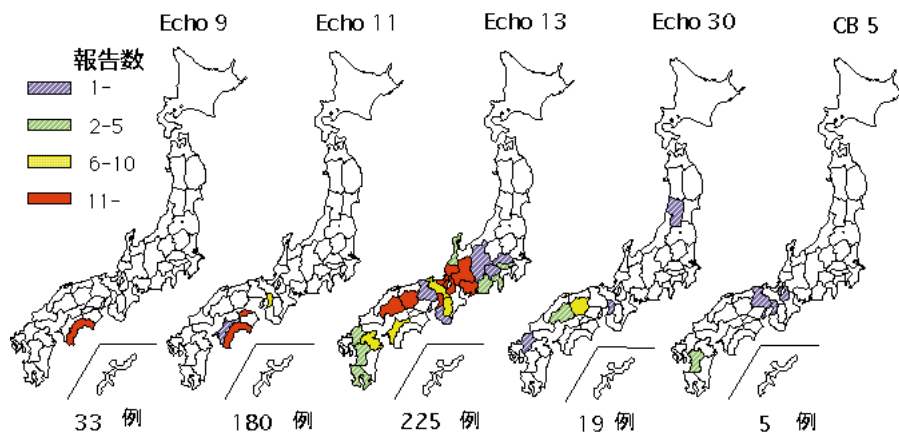
Infectious Agents Surveillance Report

無菌性髄膜炎患者から分離されたウイルス 2002年

エコーウイルス(E)466件(13型225、11型180、9型33、30型19、14型3、16型3、18型3)、ムンプスウイルス24件、B群コクサッキーウイルス6件(5型5、3型1)の分離が報告されている。E13は長野県、滋賀県、奈良県、広島県からも新たに報告があり、これまでに22都府県で分離され、関東以西の地域で依然広がりをみせている。E13は北海道・東北地方での無菌性髄膜炎患者からの分離報告はまだないものの、秋田県で感染性胃腸炎からの分離1件が報告されている。

都道府県別無菌性髄膜炎患者からの主なウイルス検出状況、2002年

(病原微生物検出情報: 2002年7月26日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの分離報告を図に示した。



Infectious Agents Surveillance Report

ヘルパンギーナ患者から分離されたウイルス 2002年

A群コクサッキーウイルス34件(4型23、6型7、5型2、10型2)、エコーウイルス7件(13型6、9型1)、B群コクサッキーウイルス1件(4型)の分離が報告されている。



国内で最初に確認されたA/H1N2型インフルエンザウイルスの分離 - 横浜市

横浜市における2001/02シーズンの流行はA/H3型とA/H1型が主流で、B型も少数分離された混合流行であった。今シーズンに、イギリス、イスラエル、エジプトなどで新しいサブタイプのA/H1N2型ウイルスが分離されたとの報告があり(IASR Vol.23, No.3外国情報参照) 横浜市での状況を把握するためノイラミニダーゼ(NA)の同定を行ったところ、中学校の集団事例からA/H1N2型ウイルスが分離されたので報告する。

1)患者情報

2002年2月5日、泉区の中学校1年生(8学級、在籍者316名、患者数210名、欠席者112名)クラスでインフルエンザ様疾患の集団発生報告があった。同日患者5名(1組1名、4組2名、6組1名、8組1名)についてうがい液と血液を採取した。患者の症状は発熱(38.0～40.0) 咳、頭痛、咽頭痛で、1名は下痢症状があった。同校は2月5～7日まで8学級すべてを学級閉鎖した。

2)ウイルス分離および性状

患者うがい液からMDCK細胞を用いてウイルス分離を試みたところ、同一クラスの生徒2名の検体からA/H1型インフルエンザウイルス[A/Yokohama(横浜)22/2002、A/Yokohama(横浜)47/2002]が分離された。また、ウイルス分離できなかった3名中、別クラスの生徒1名の検体から、RT-PCRによってA/H1型インフルエンザウイルスの遺伝子が検出された。国立感染症研究所から分与された2001/02シーズンのフェレット感染抗血清を用いて分離株の赤血球凝集素(HA)蛋白の抗原性を解析したところ、両株とも2001/02シーズンのワクチン株であるA/New Caledonia/20/99に類似の抗原性を示すことが明らかとなった。患者5名の急性期・回復期のペア血清についてHI抗体価の測定を行った結果、4名はA/New Caledonia/20/99およびA/Moscow/13/98に対して4倍以上の有意な抗体価上昇がみられた。これらの成績からA/H1型インフルエンザウイルスによる集団発生と推定された。この2株を含む今シーズンに分離されたA/H1型ウイルス5株についてHA1遺伝子のダイレクトシーケンスを行い、系統樹解析を行った。集団発生から分離された2株はA/New Caledonia/20/99や1999/2000シーズン分離株と同じ枝に属し、2000/01シーズン分離株や今シーズンの他のA/H1型分離株とは別の枝であった。

3)NAの同定および確認

本集団発生からの分離株を含む、2001/02シーズンに分離されたA/H1型27株についてRT-PCRを行い、N1型とN2型の鑑別を行ったところ、この中学校の集団発生から分離された2株のみがN2型であった。そこで、分離株のNA遺伝子のPCR産物についてシーケンスを試み、一部の塩基配列(195アミノ酸相当)を決定したところ、この2株間ではアミノ酸の違いは認められない一方、A/Panama/2007/99(H3N2)とこの2株の間で6アミノ酸に相違がみられた。今シーズンもA/H3型が混合流行していたことから、被検患者がA/H1、A/H3両亜型のウイルスに混合感染し、ウイルス分離過程において遺伝子再集合が起こった可能性や、実験室内コンタミネーションに伴う遺伝子再集合の可能性を否定するための確認作業を行った。うがい液から直接RT-PCRを行った結果、ウイルスが分離された2検体と、A/H1型の遺伝子が確認された1検体でN2型のバンドが確認されたが、A/H3型の遺伝子は検出されなかった。さらに、うがい液をMDCK細胞に接種しプラーククローニングを行い、それぞれ10クローンについてRT-PCRによるHAおよびNAの亜型の同定を行ったところ、すべてのクローンウイルスについてA/H1型とN2型の遺伝子を確認し、A/H3型の遺伝子は認められなかった。このことから、患者がA/H1、A/H3両亜型のウイルスに混合感染し、ウイルスの分離過程において遺伝子再集合が起こった可能性は否定された。

また、実験室内でのコンタミネーションの可能性を否定するため、国立感染症研究所にうがい液を送付し、感染研においてうがい液からのウイルスの再分離を行った。感染研においても、A/Yokohama/22/2002およびA/Yokohama/47/2002が分離されたうがい液からのウイルス分離に成功した。そして、横浜市衛研から送付された2株と感染研において分離された2株について、RT-PCRによってHAおよびNAの亜型の同定を感染研で実施したところ、A/H1N2型であることが確認された。

4) 考 察

A/H1型による集団発生事例から分離されたA/Yokohama/22/2002およびA/Yokohama/47/2002の2株は、今回報告したように、横浜市衛研と感染研でそれぞれ独立に行った同一検体からのウイルス分離と亜型の同定の結果が一致したことから、わが国で最初に確認されたA/H1N2型インフルエンザウイルスの分離例である。横浜市における集団発生状況は幼稚園3施設、小学校3施設、中学校2施設の合計8施設であり、昨シーズンと同様小規模な発生であった。調査した5施設はA/H1N1型による発生が幼稚園1施設、A/H1N2型による発生が中学校1施設となり、3施設(幼稚園1施設、小学校1施設、中学校1施設)はA/H3型による発生であった。今回分離されたA/H1N2型ウイルスの由来が、世界各国で報告されているものと同じであるか否かが今後の検討課題である。

一方、今回の事例からは、臨床症状としては従来のインフルエンザと特に相違はなく、A/H1N2型による特徴的な症状は認められないようである。通常のインフルエンザの同定試験では、HI試験またはRT-PCRによりHAの亜型のみを同定するに留まっている。今回の事例のように、A/H1型で報告した中にはA/H1N2型が含まれている可能性が考えられ、今後NAの亜型同定も重要であると思われる。

なお、本インフルエンザウイルスのH1およびN2の抗原性は、昨シーズンおよび次シーズンのワクチン株のA/H1N1とA/H3N2のH1およびN2の抗原性と類似であるので、現行のワクチンが有効であると考えられる。

今回感染研においてNA遺伝子の亜型同定に用いたPCRプライマーは、英国National Institute for Medical ResearchのAlan Hay、Yipu Lin両博士からの情報によった。

横浜市衛生研究所

川上千春 宗村徹也 七種美和子 野口有三 藤井菊茂 高岡幹夫

国立感染症研究所・ウイルス第三部

西藤岳彦 斎藤利憲 中矢陽子 伊東玲子 小田切孝人 田代真人

(IASR2002年8月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)



海外感染症情報

* 関連の情報やさらに詳しい情報については、FORTHホームページ(<http://www.forth.go.jp/>)をご覧ください。

ニジェールでのコレラ流行

WHO/CSR 2002年7月24日

公衆衛生省は、ナイジェリア南部でベナン国境付近のDosso郡Gaya地域で、7月9日から7月22日の間に死者8例を含む104例のコレラ患者の発生を報告した。ビブリオコレラエルトル型が国の委託研究所で確定された。

同省と地域保健当局は、衛生状態を改善するために、保健教育キャンペーン、井戸の塩素消毒や、Gaya地域を含む全土でのサーベイランスなどの流行征圧対策を開始した。

ラテンアメリカのデング熱 - 更新

Health Canada 2002年7月16日

http://www.hc-sc.gc.ca/pphb-dgspsp/tmp-pmv/2002/df0327_e.html

Health Canadaはデング熱(DF)発生が知られている中南米・カリブ海でのデング熱の活動性を監視している。最近の報告は以下のとおりである。

	2002年患者数	人口10万人 あたり発生率	2001年患者数	人口10万人 あたり発生率
バルバドス	389 (11週現在)	145.15	1,043	389.18
ブラジル	555,691 (23週現在)	322.23	413,067 (1-50週)	239.38
コロンビア	34,559 (21週現在)	170.01	55,437	272.21
コスタリカ	2,199 (21週現在)	194.77	9,237	818.16
キューバ	3,011 (18週現在)	26.75	11,432	101.58
エクアドル	3,705 (13週現在)	28.77	10,919 (1-38週)	84.77
エルサルバドル	3,462 (23週現在)	54.09	1,093	17.09
グレナダ	96 (19週現在)	102.13	12	12.77
ホンジュラス	3,116 (23週現在)	47.39	9,077	138.05
ペルー	6,250 (21週現在)	23.93	23,329	89.41
プエルトリコ	1,174 (19週現在)	29.71	5,233	132.41
St.ビンセントとグレナディン	114 (18週現在)	100.00	3	2.63
トリニダード・トバゴ島	1,235 (19週現在)	95.00	2,244	172.62
ベネズエラ	20,080 (23週現在)	81.52	83,180	337.69

情報源: Pan American Health Organization

他のラテンアメリカの国々でのデング熱活動報告は、Travel Medicine Program のInternational Reports of Dengue Fever and Dengue Haemorrhagic Fever Activityを参照。

http://www.hc-sc.gc.ca/pphb-dgspsp/tmp-pmv/df-dhf_e.html

ウエストナイルウイルスの活動性 - 米国 2002年7月17～23日

CDC/MMWR 2002年7月26日

<http://www.cdc.gov/mmwr/preview/mmwrhtml/mm5129a4.htm>

この報告は、ArboNETを通してCDCに報告され、州などによって2002年7月23日現在確認されたウエストナイルウイルス(WNV)サーベイランスデータを要約する。

2002年7月17～23日に、9名のウエストナイルウイルス感染患者が2州(ルイジアナ、ミシシッピ)から報告された。同期間に、死んだカラス202羽、カラス以外の死んだトリ48羽、ウマ13頭、蚊のプール69件でWNV感染が報告された。

2002年にルイジアナ州とミシシッピ州から、合計12名のWNV脳炎あるいは髄膜炎の患者が報告された。8名が男性で、年齢の中央値は74歳(34～88歳) 発病日は2002年6月10日～7月11日であった。加えて、25州とニューヨーク市とDCで、死んだカラス373羽、カラス以外の死んだ鳥314羽がWNV脳炎に罹患していたと報告された。フロリダ、ケンタッキー、ルイジアナ、ミシシッピ、ノースダコタ、テキサスの6州から、36頭のウマがWNVに感染していたと報告された。2002年に、フロリダの6群の定点観測鶏からWNVに対する抗体の陽転が報告され、インディアナとルイジアナの2州から野生の鳥の血清抗体陽性が報告された。アラバマ、イリノイ、インディアナ、マサチューセッツ、ニュージャージー、オハイオ、ペンシルバニア、テキサスの8州とニューヨーク市から蚊のプール95件が、WNV陽性であると報告された。

WNV活動性の詳細情報は下記ホームページを参照。

<http://www.cdc.gov/ncidod/dvbid/westnile/index.htm>

http://cindi.usgs.gov/hazard/event/west_nile/west_nile.html

挽肉による複数の州での病原大腸菌O157:H7感染の流行について - 米国2002年6～7月

CDC/MMWR 2002年7月26日

<http://www.cdc.gov/mmwr/preview/mmwrhtml/mm5129a1.htm>

2002年7月コロラド州公衆衛生環境局(CDPHE)は、コロラド州住人の間で病原大腸菌O157:H7の流行発生を確認した。この報告では、汚染挽肉を食べ、28人の患者がコロラド州と他の6州で発生した件に関する疫学および検査による調査の結果を要約する。この挽肉は2002年6月30日にConAgra牛肉会社によりリコールされている。現在までに7人の患者が入院し、5人がHUSを発症した。

調査の結果、6月1日あるいはそれ以後に発症したコロラド州住人1例から病原大腸菌O157が培養同定され、PFGE二制限酵素分析法によるパターン的一致が見られた。現在までに18例が同定された。患者年齢の中央値は15歳(1～72歳)であった。発症日は6月13日から7月7日であった。疫学的関連があるが検査で診断がついていないコロラド州住人の患者のうち、2例がHUSと診断された。

感染が確定診断された18例の患者中16例に聞き取り調査を行い、全員が発病の7日以内に挽肉を食べていた。16例の患者は全員、6月10～24日に食品販売チェーン店Aから購入した挽肉を食べていた。患者の家からサンプリングされ開封された挽肉のパッケージから、O157が培養された。CDPHEによる患者の家からサンプリングされた挽肉の追跡調査により、この挽肉は、5月31日にConAgra牛肉会社により生産された挽肉を食品販売チェーン店Aが再度挽いていたことが判明した。6月30日、流行の調査とは別に、ConAgra牛肉会社では、5月31日に製造した354,200ポ

ンドの挽肉のリコールを発表した。このリコールは、合衆国農業省の指導に基づく定期の微生物検査によりO157が検出されたことによるものである。

CDPHEとCDCによるPFGE二制限酵素分析法の結果、コロラド州の18例から分離されたO157は、上記の患者の家から検出されたO157、およびConAgra牛肉会社のリコールされた挽肉から検出されたO157とパターンが同一であった。コロラド州以外の潜在的な患者を同定するため、流行に関連したPFGEパターンがPulseNet(National Molecular Subtyping Network for Foodborne Disease Surveillance)に公開された。疫学データおよび分子サブタイピングにより、6州(カリフォルニア、アイオワ、ミシガン、サウスダコタ、ワシントン、ワイオミング)で8例のO157患者が同定された。発症日は6月17 ~ 27日であった。コロラド州以外の8例の患者では、6例で二制限酵素分析法によるPFGEパターンが流行パターンと同一で、他の2例は類縁パターンであった。州および地方保健当局は、新たに発生した患者を、疫学的および分子生物学的に、流行への関連を調査している。



感染症の話

流行性角結膜炎

流行性角結膜炎(EKC : epidemic keratoconjunctivitis)は、主にD群のアデノウイルスによる疾患で、主として手を介した接触により感染する。以前は、本疾患患者を扱った眼科医や医療従事者などからの感染が多く見られたが、現在では、職場、病院、家庭内などの人が濃密に接触する場所などでの流行的発生もみられる。アデノウイルスは種々の物理学的条件に抵抗性が強いため、その感染力は強い。19世紀後半、ドイツの労働者の間で流行したことが記載されている。その後米国で、"shipyard eye"と呼ばれる眼疾患が流行した。造船所の労働者が眼の外傷の治療のさい、医原病的に広がったものと考えられる。今日我が国では全国的にEKCがみられるが、年度によりD群の8、19、37型のいずれかの流行となっている。

疫学

流行性角結膜炎患者との接触により感染する。病院の医師、看護婦、さらに職場や家庭などで、ウイルスにより汚染されたティッシュペーパー、タオル、洗面器などに触れるなどして感染する。年齢による頻度の差はみられない。血清学的調査では、日本の子供の8型に対する抗体保有率は20%未満、19型および37型に対しては10%程度である。

感染症法施行後の発生動向調査によると、全国約600の眼科定点からの報告では1999年4～12月に報告数23,941(定点当たり報告数41.71)、2000年1～12月に40,873(65.40)、2001年1～12月(暫定データ)に39,141(62.13)となっている。季節としては8月を中心として夏に多く、年齢では1～5歳を中心とする小児に多いが、成人も含み幅広い年齢層にみられる。

病原体

アデノウイルスは現在まで49種の血清型が知られているが、EKCを起こすのはD群の8、19、37型である。まれに、B群の11型、E群の4型も病因となりうる。現在流行中の型は19型であり、ほぼ全国から分離されているが、8型と9型の中間型と思われる血清型が沖縄県におけるEKCの病原と考えられており、同様の型が横浜、秋田でも分離されている。

臨床症状

潜伏期は8～14日である。急に発症し、眼瞼の浮腫、流涙を伴う。感染力が強いので両側が感染しやすいが、初発眼の方が症状が強い。耳前リンパ節の腫脹を伴う。角膜に炎症が及ぶと透明度が低下し、混濁は数年に及ぶことがある。時に結膜炎が出血性となり、出血性結膜炎(EV70, CA24変異株による)や咽頭結膜熱との鑑別を要することがある(図1)。その他、ヘルペスウイルスや、クラミジアによる眼疾患との鑑別が必要である。



図1. アデノウイルス8型による結膜炎

(青木功喜 撮影)

新生児や乳幼児では偽膜性結膜炎を起こし、細菌の混合感染で角膜穿孔を起こすので注意する必要がある。

病原診断

眼ぬぐい液や結膜擦過法によりアデノウイルスを分離することが、病原診断の基本である。ウイルスが分離されたら、中和反応により型を同定する。ほとんどはD群であり、重症型が多い。他の型が分離される軽症型では、咽頭結膜熱との異同を再検討する。急性出血性結膜炎はエンテロウイルス(EV70)の感染によるものであるが、これは最近、分離困難となり、ペア血清での中和抗体の有意の上昇、あるいはPCRによる検出が必要となる。

迅速診断法としてELISAやクロマトグラフィー法(アデノクロン、アデノチェック)があるが、型別の判定はできない。PCR RFLP法やシーケンス法により、型の同定が可能となった。血清型を知ることによって、より詳細な疫学的調査が可能となり、公衆衛生的対応にも結びつくことが期待される。

治療・予防

アデノウイルス全般について有効な薬剤はない。対症療法的に抗炎症剤の点眼を行い、さらに角膜に炎症がおよび混濁がみられるときは、ステロイド剤を点眼する。細菌の混合感染の可能性に対しては、抗菌剤の点眼を行う。眼疾患患者の分泌物の取扱いと処分に注意し、手洗い、消毒をきちんと行う。点眼瓶類がウイルスで汚染されないように注意をし、汚染された病院内の器具類はオートクレーブで滅菌するか、あるいはアルコール、ヨード剤などで消毒する。予防の基本は接触感染予防の徹底である。

感染症法における取扱い

本症は4類感染症定点把握疾患であり、全国約600カ所の眼科定点から毎週報告がなされている。報告のための基準は以下の通りとなっている。

診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ以下の3つの基準のうち2つ以上を満たすもの

1. 重症な急性濾胞性結膜炎
2. 角膜点状上皮混濁
3. 耳前リンパ節腫脹、圧痛

上記の基準は必ずしも満たさないが、診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、病原体診断や血清学的診断によって当該疾患と診断されたもの

< 付記 >

EKCという診断名は8型において初めて用いられ、一元的な病因論でいわれていたが、その後19、37型も8型と全く区別できず、多元的病因論が受け入れられている。4型でもEKCからPCFまで幅広い臨床像を示し、B群は軽症なのでEKCよりアデノウイルス結膜炎という診断名を用い、重症型(D群)、中間型(E群)、軽症型(B群)という用語を用いることが提唱されている。

(国立感染症研究所感染症情報センター 稲田敏樹、北海道大学医学部眼科学教室 青木功喜)



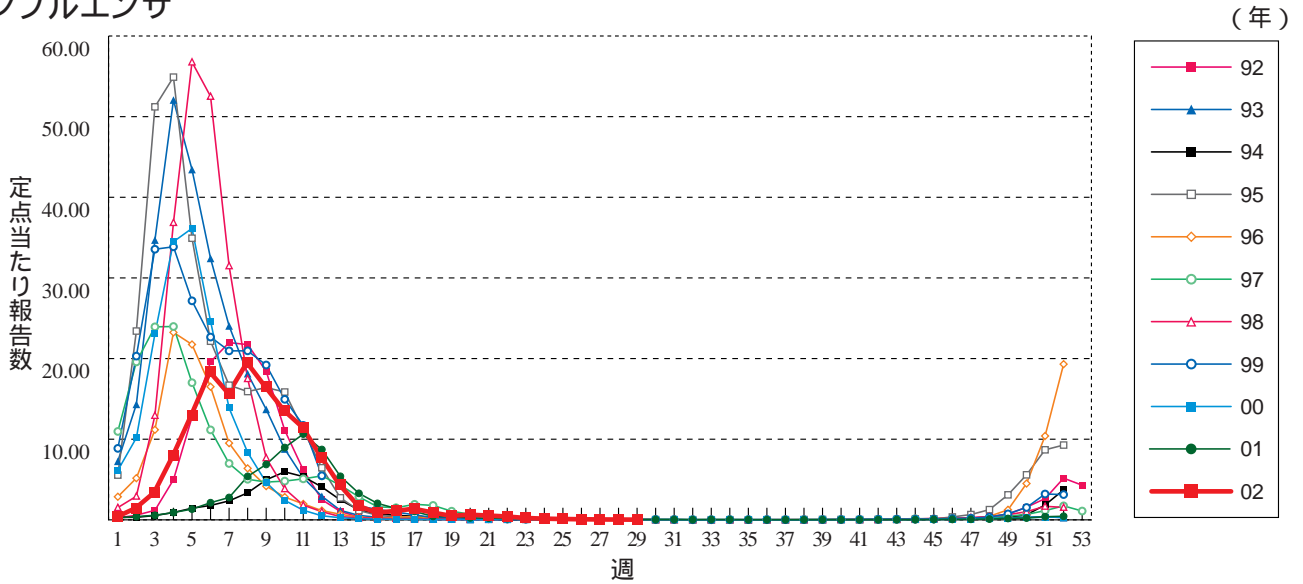
読者のコーナー

「読者のコーナー」では読者のみなさまからのご意見・ご質問をお待ちしております。
ご意見・ご質問は、題名(タイトル)の一番はじめにidwr-Q:をつけてこちらまでEメールでどうぞ。

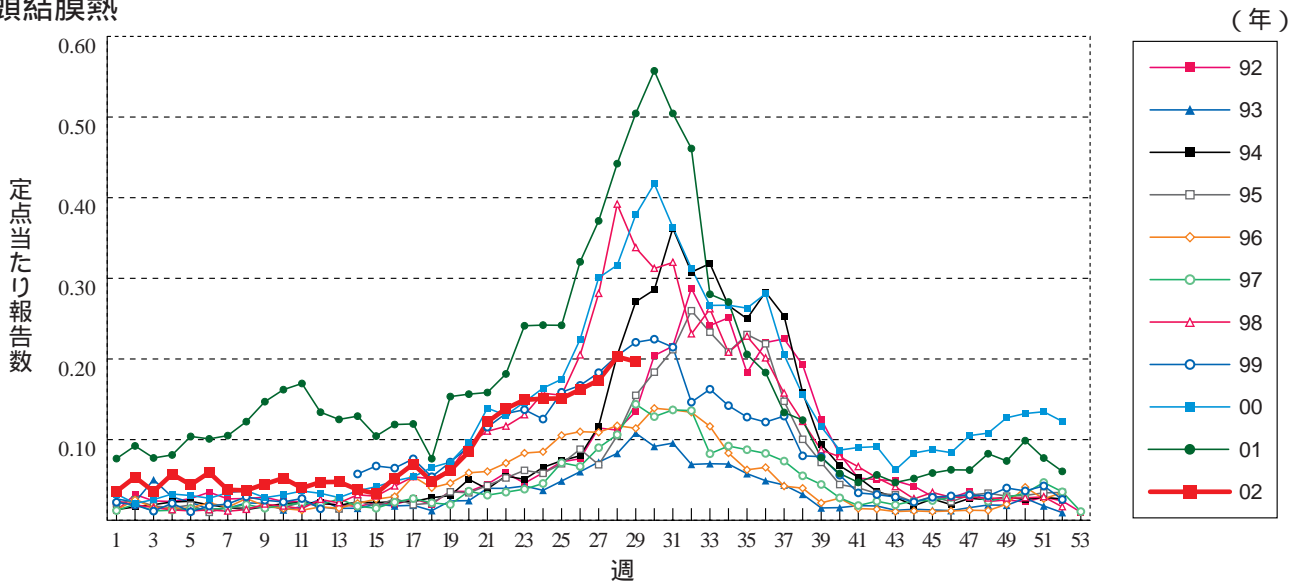
idsq-query@nih.go.jp

グラフ総覧(29週)

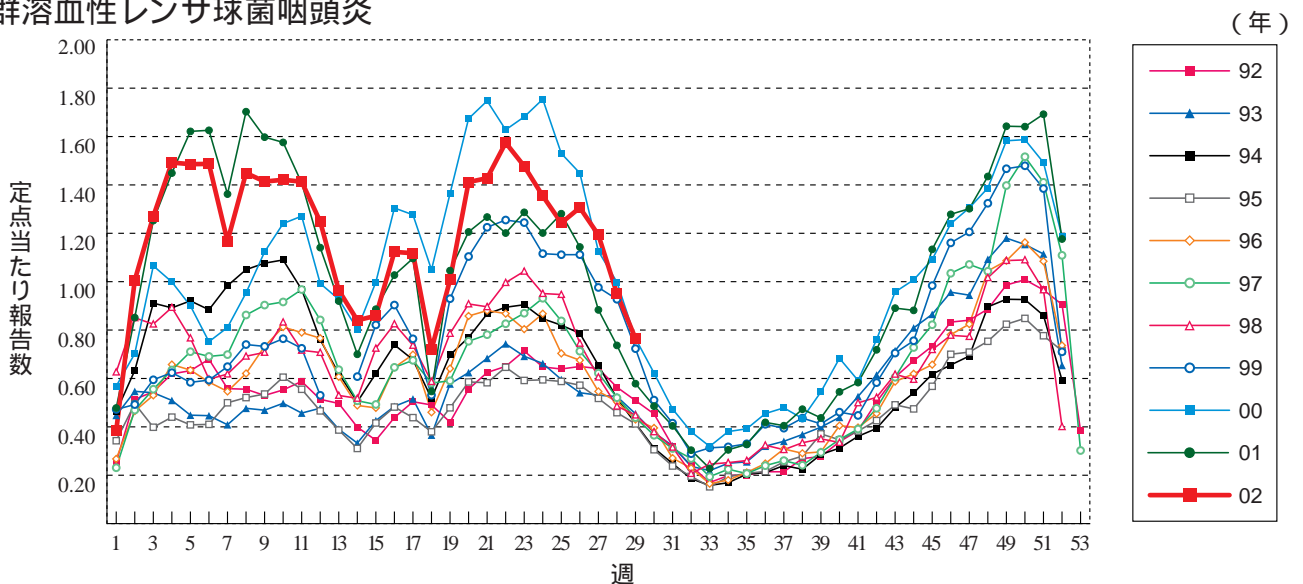
インフルエンザ



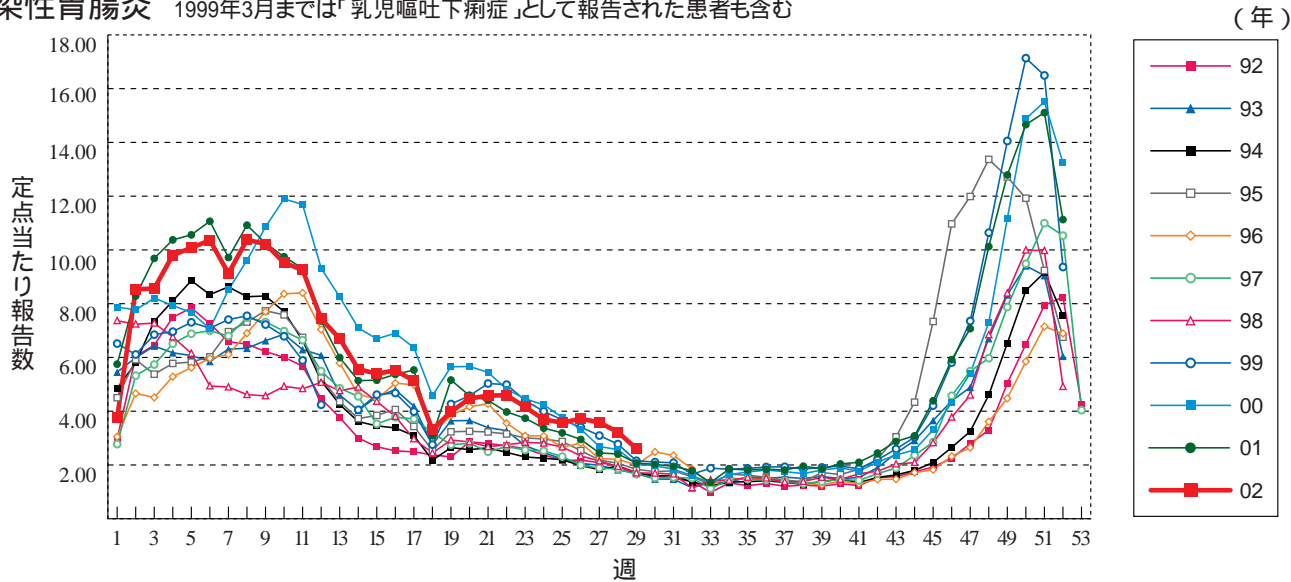
咽頭結膜熱



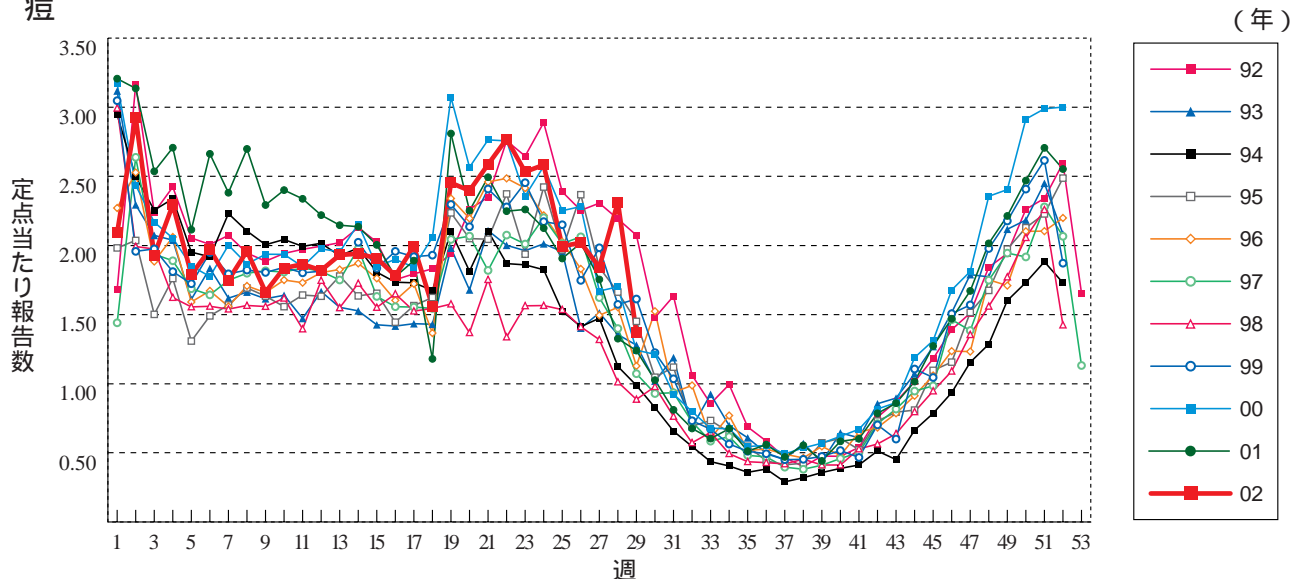
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



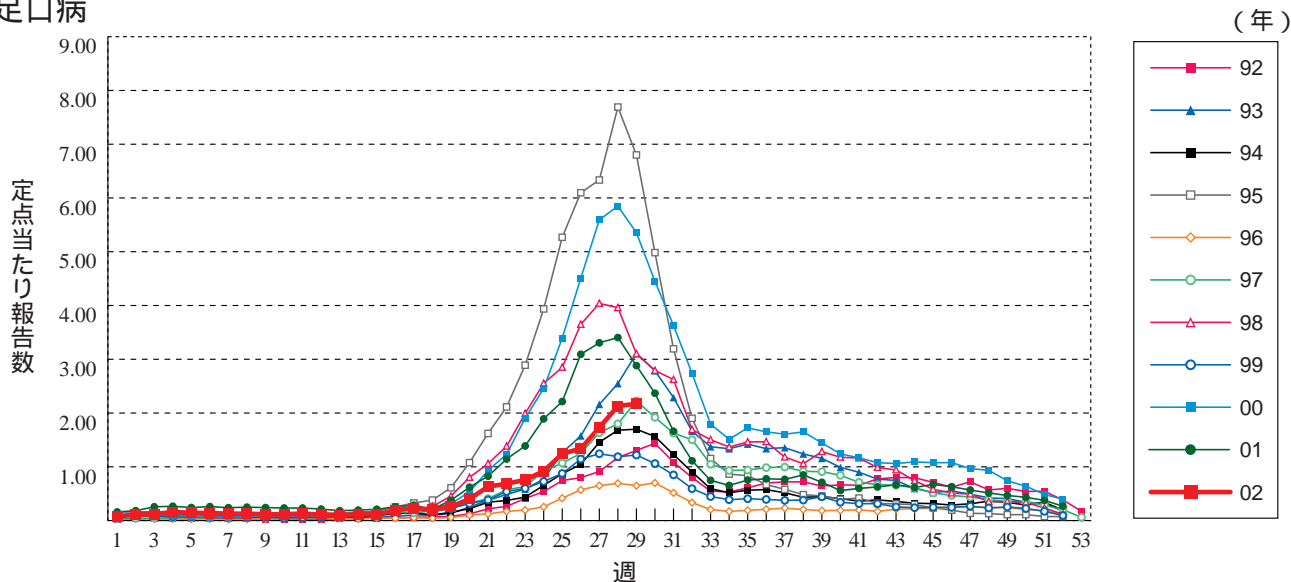
感染性胃腸炎 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



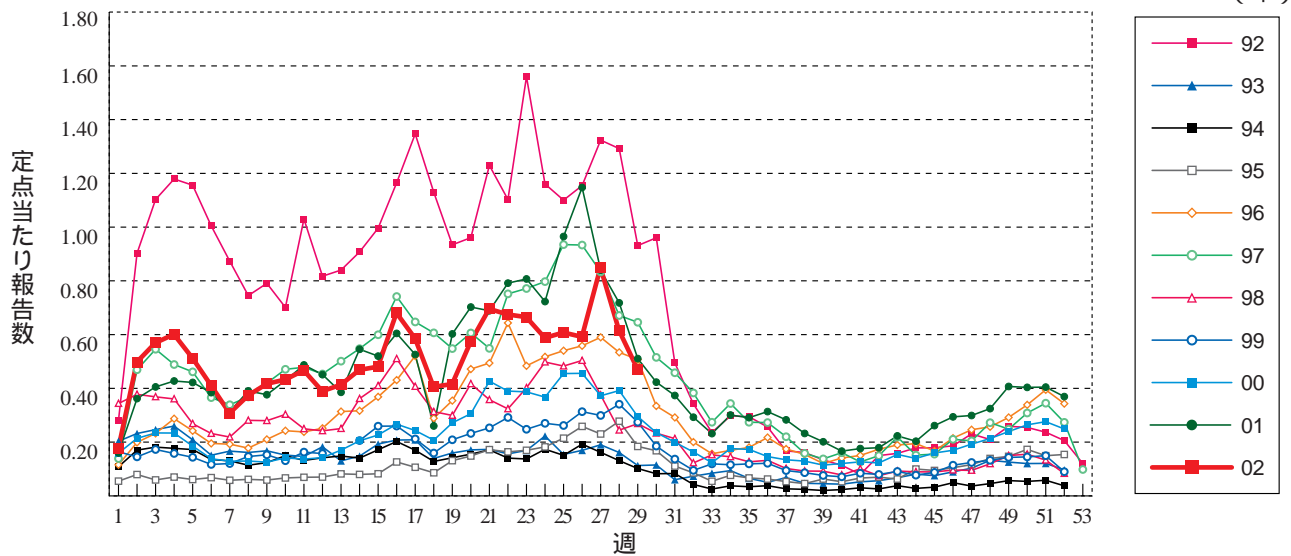
水痘



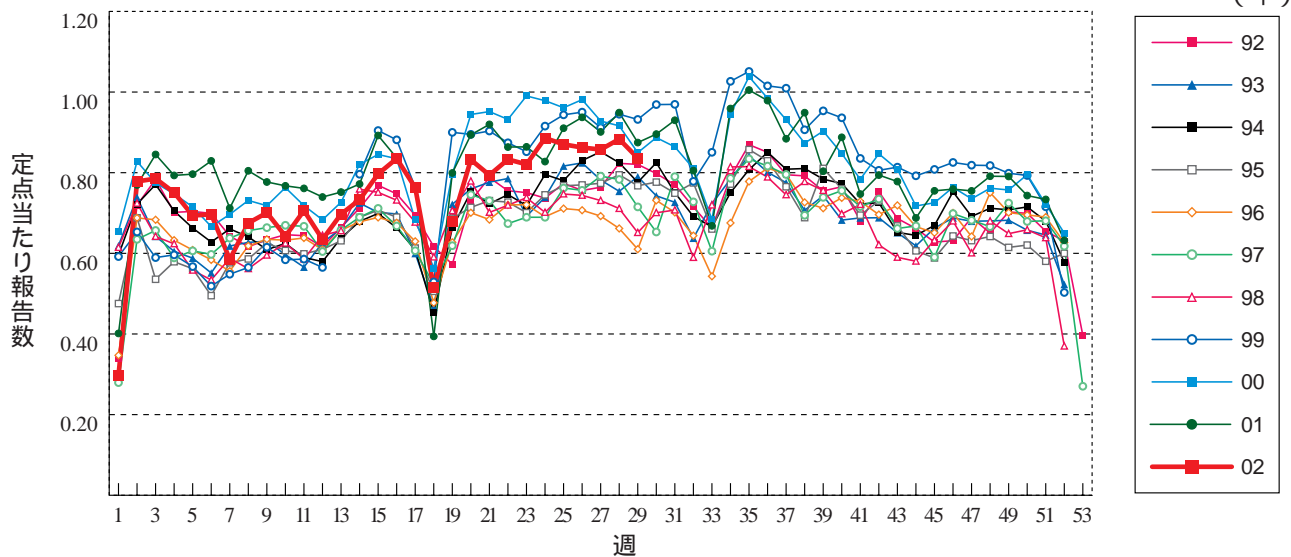
手足口病



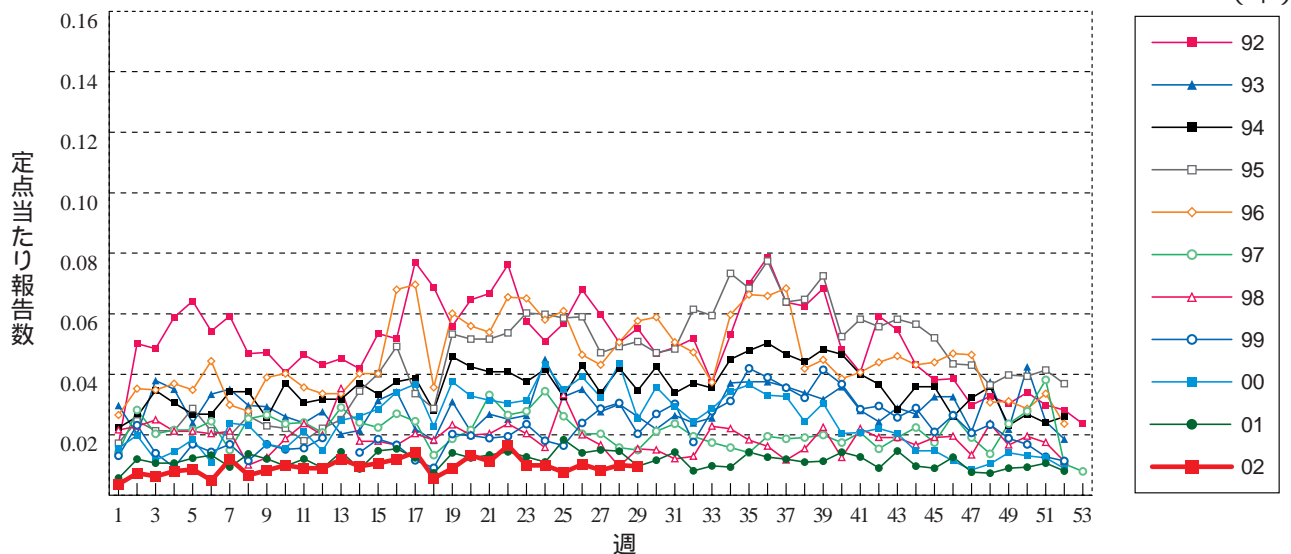
伝染性紅斑



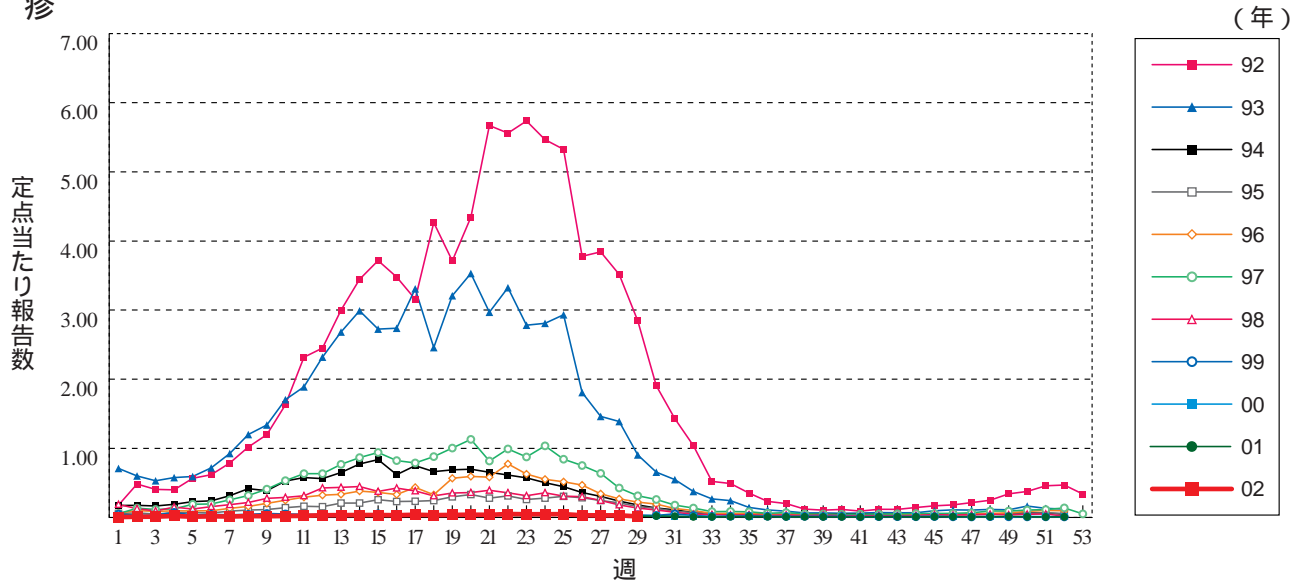
突発性発疹



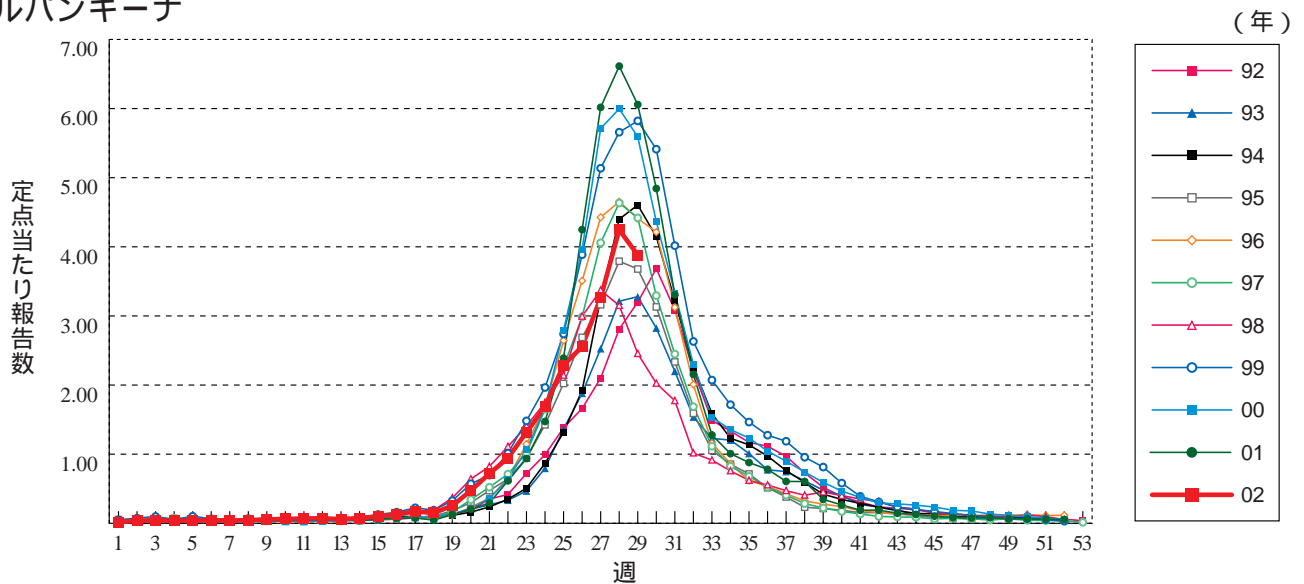
百日咳



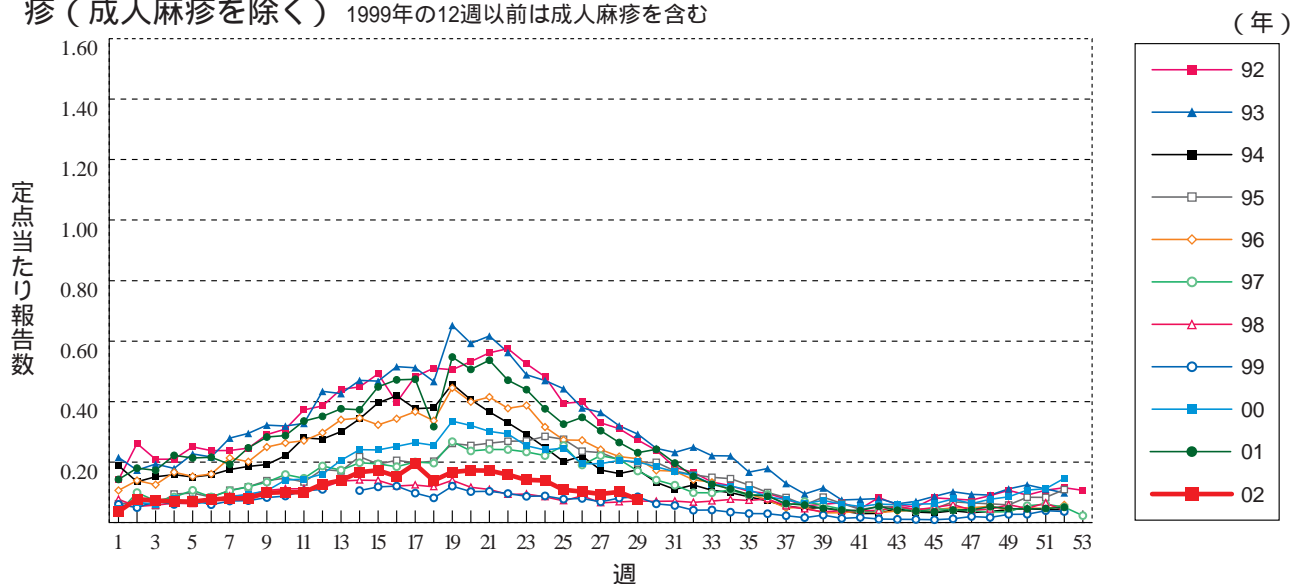
風 疹



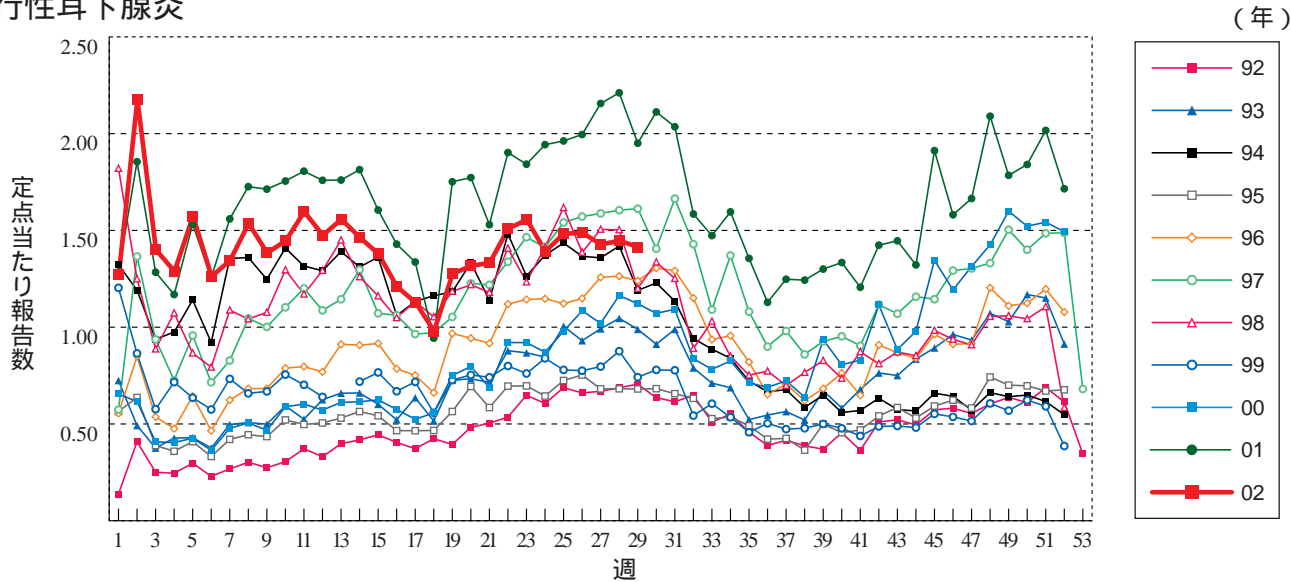
ヘルパンギーナ



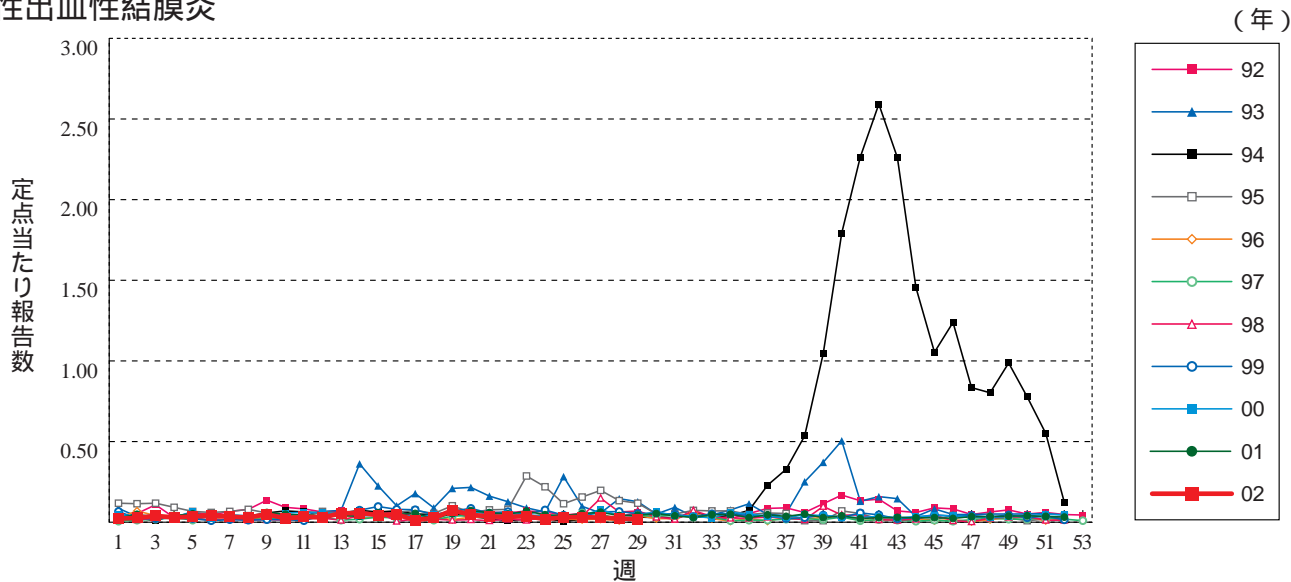
麻 疹 (成人麻疹を除く) 1999年の12週以前は成人麻疹を含む



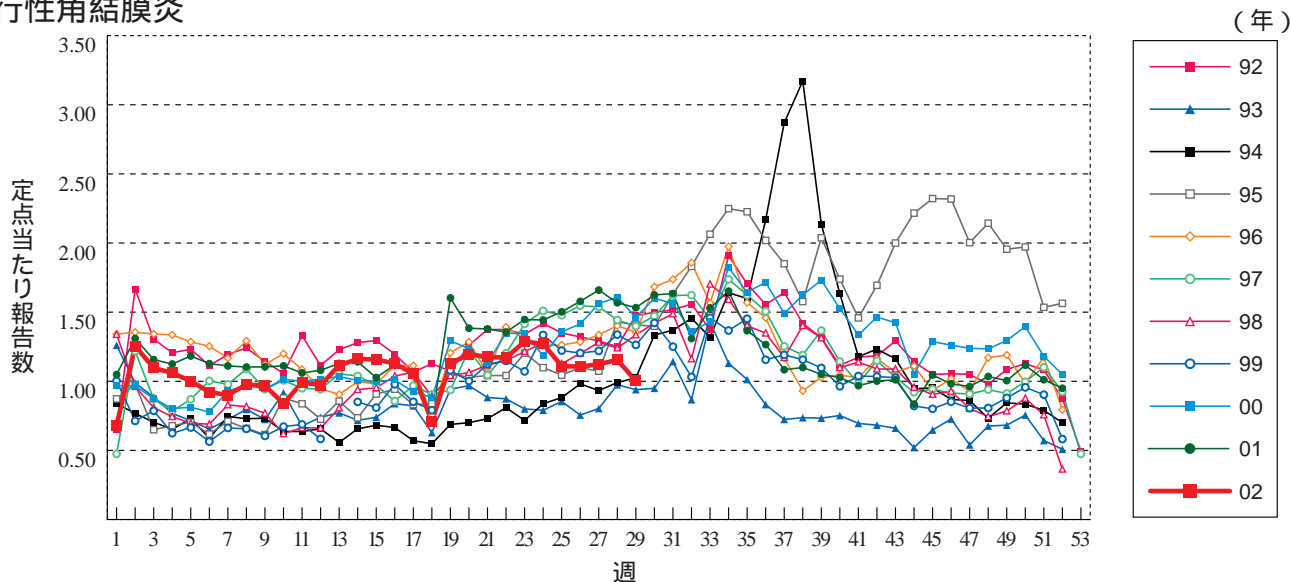
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

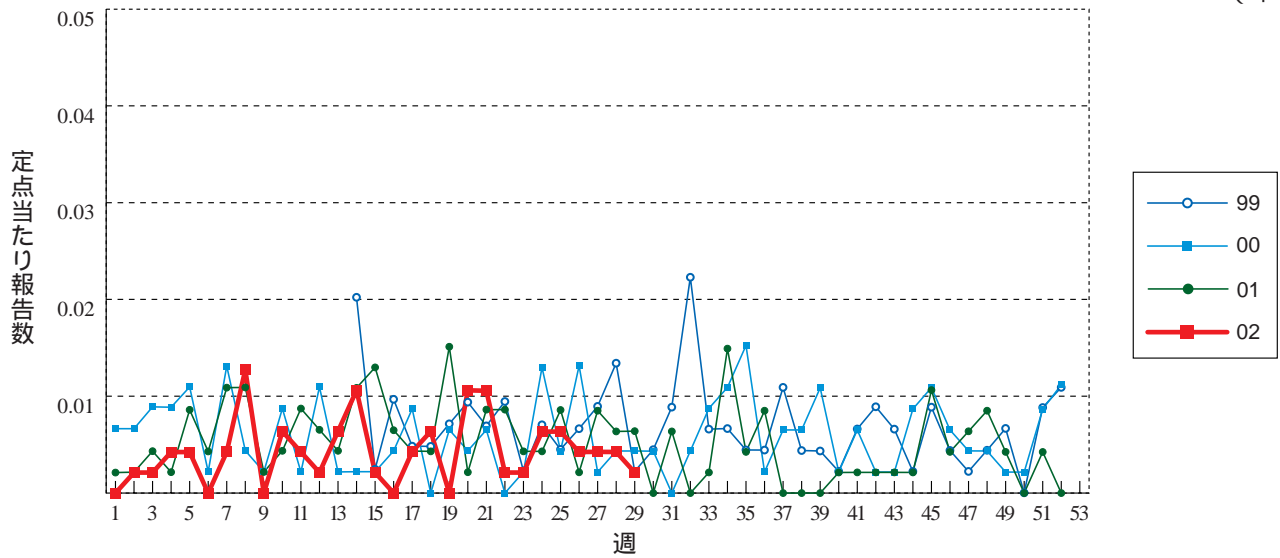


流行性角結膜炎



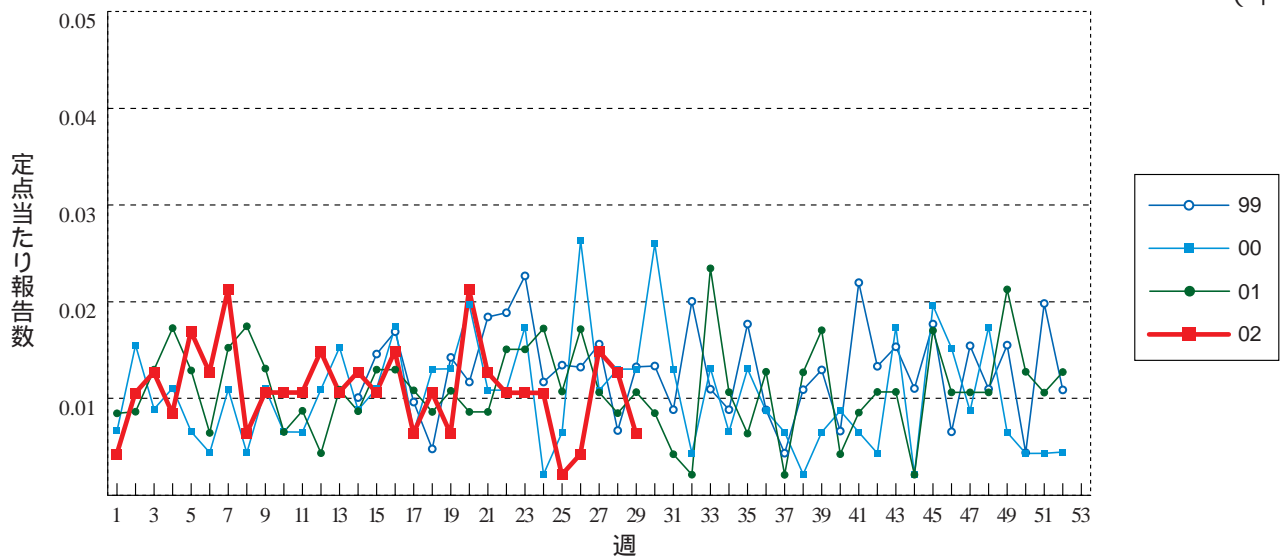
急性脳炎 (日本脳炎を除く)

(年)



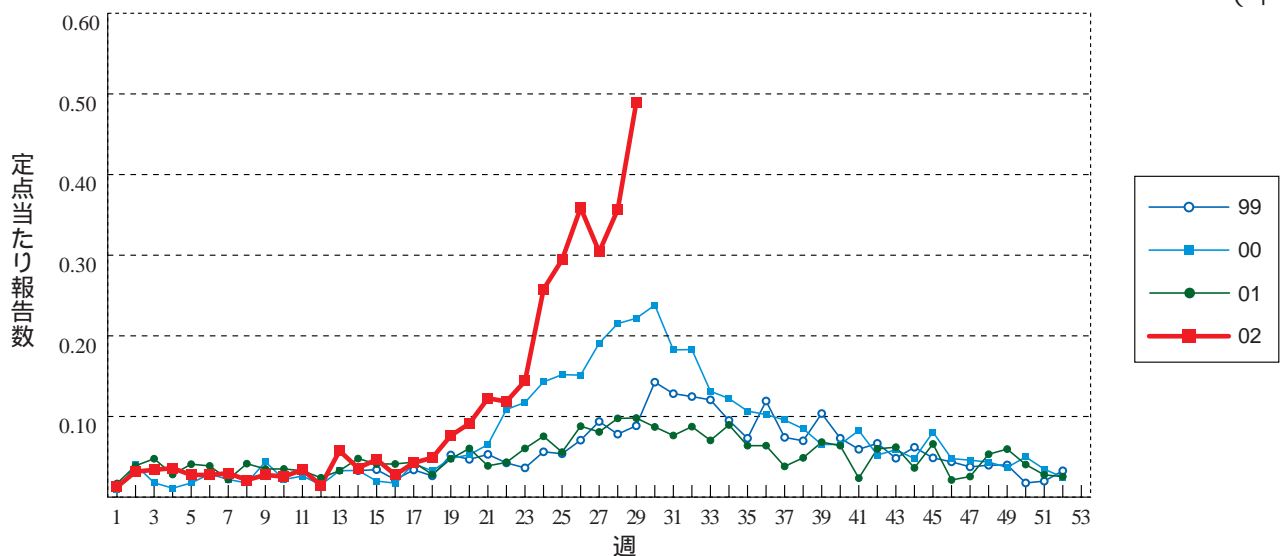
細菌性髄膜炎

(年)



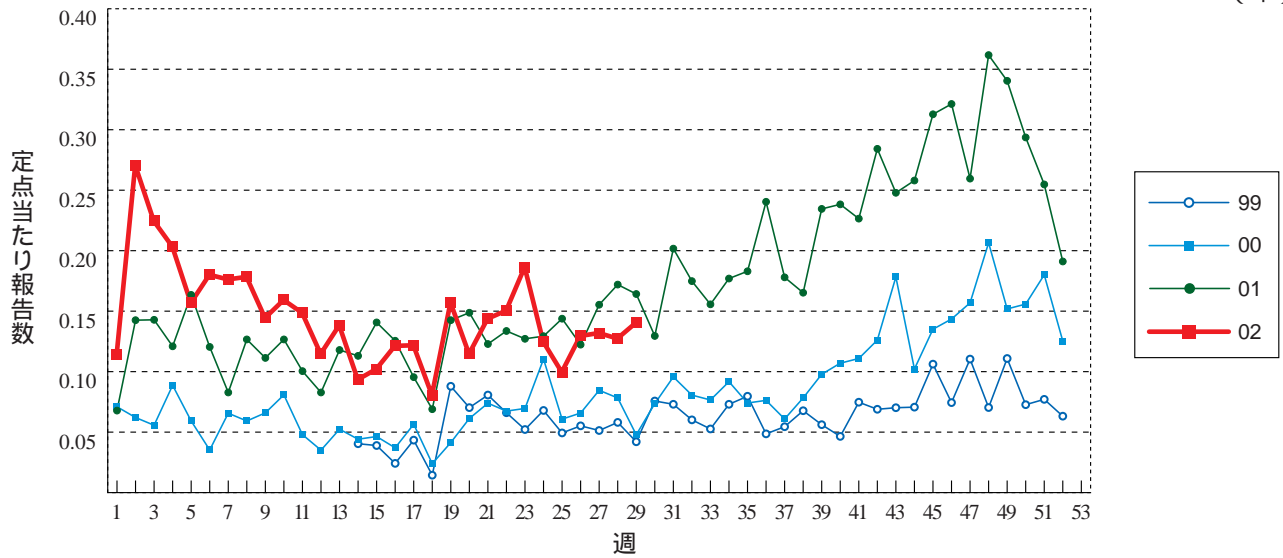
無菌性髄膜炎

(年)



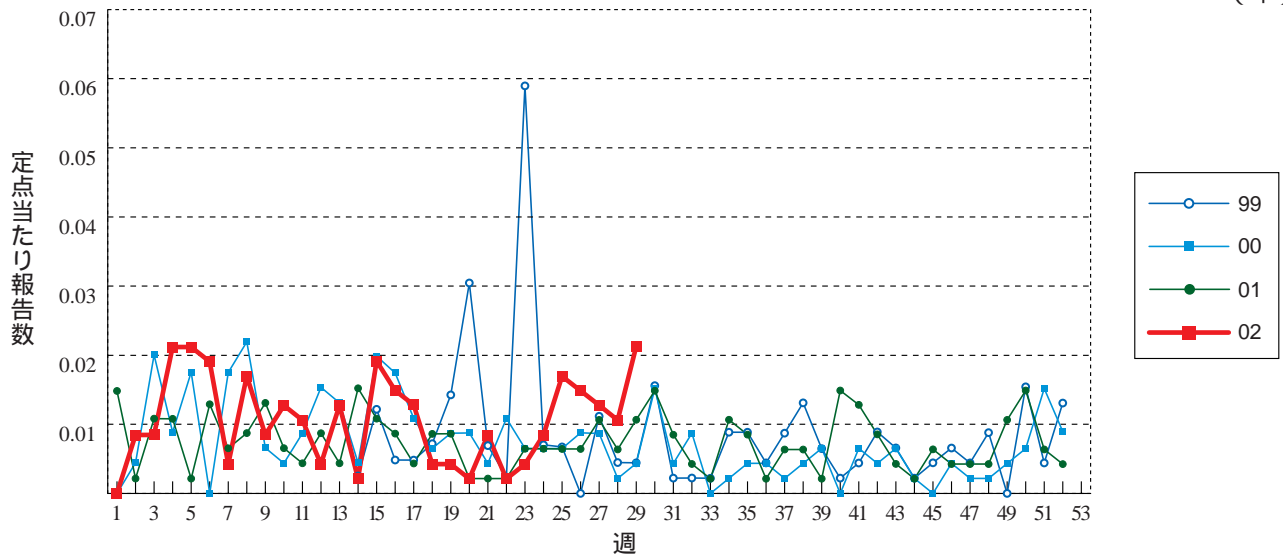
マイコプラズマ肺炎

(年)



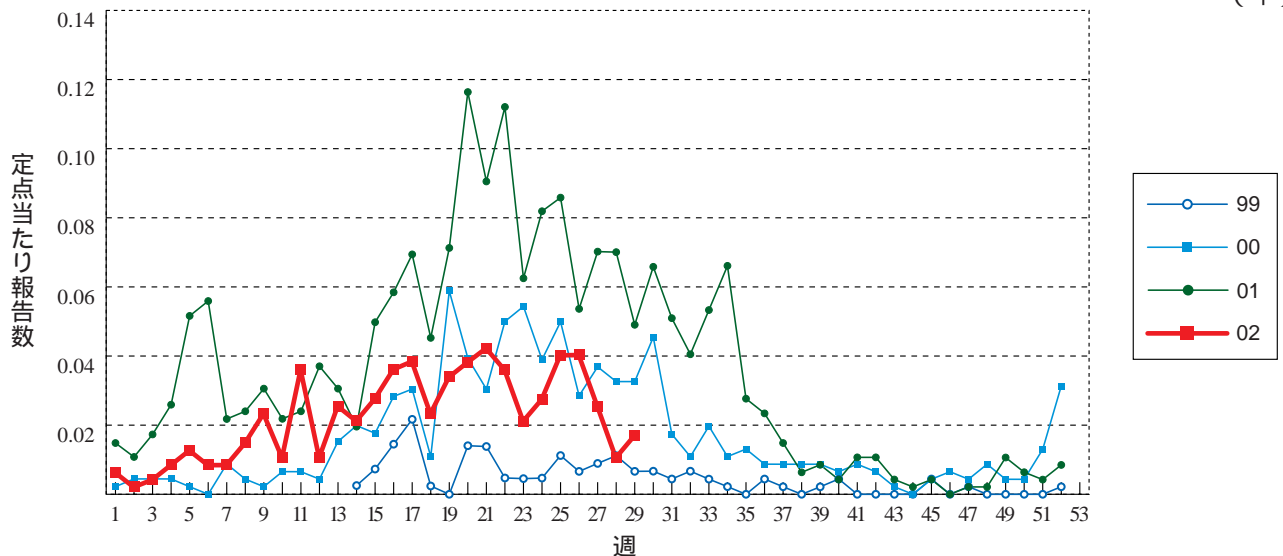
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



成人麻疹

(年)





29週のデータ

注)表中の報告数は7月25日集計分であり、その後の報告数は次週以降の累計に反映されます。

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成14年29週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		バラチフス	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	17	12	429	1	34	1	21
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	8	-	1	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	1
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	30	-	1	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	-	1	-	1
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	70	1	2	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	2	46	-	15	-	8
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	20	-	3	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5	-	1	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	1	7	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25	-	-	-	1
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	29	-	-	-	1
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	12	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	8	-	-	-	1
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	7	-	-	-	2
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	21	-	3	1	3
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	7	-	3	-	1
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	-	3	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	29	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	2	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成14年29週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	112	1242	4	245	-	5	-	-	1	43	-	-	9	619
北海道	-	-	-	-	2	24	1	10	-	4	-	-	-	3	-	-	-	10
青森県	-	-	-	-	1	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
岩手県	-	-	-	-	4	32	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
宮城県	-	-	-	-	1	17	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	1	30
秋田県	-	-	-	-	4	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	8
山形県	-	-	-	-	7	11	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
福島県	-	-	-	-	1	9	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
茨城県	-	-	-	-	2	8	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
栃木県	-	-	-	-	2	6	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
群馬県	-	-	-	-	5	21	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
埼玉県	-	-	-	-	8	24	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	1	23
千葉県	-	-	-	-	3	97	-	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	36
東京都	-	-	-	-	15	80	-	57	-	-	-	-	-	2	-	-	-	115
神奈川県	-	-	-	-	7	50	-	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	30
新潟県	-	-	-	-	3	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
富山県	-	-	-	-	-	19	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2
石川県	-	-	-	-	5	40	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
福井県	-	-	-	-	-	14	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山梨県	-	-	-	-	2	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
長野県	-	-	-	-	2	8	-	2	-	-	-	-	-	2	-	-	-	9
岐阜県	-	-	-	-	-	8	-	7	-	-	-	-	-	3	-	-	-	15
静岡県	-	-	-	-	4	19	-	2	-	-	-	-	1	2	-	-	-	18
愛知県	-	-	-	-	2	44	-	12	-	-	-	-	-	-	-	-	2	31
三重県	-	-	-	-	-	7	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
滋賀県	-	-	-	-	-	4	-	4	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
京都府	-	-	-	-	-	35	-	8	-	-	-	-	-	2	-	-	-	17
大阪府	-	-	-	-	7	117	2	41	-	-	-	-	-	3	-	-	-	39
兵庫県	-	-	-	-	5	113	-	13	-	-	-	-	-	2	-	-	2	33
奈良県	-	-	-	-	1	18	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
和歌山県	-	-	-	-	-	10	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
鳥取県	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3
島根県	-	-	-	-	2	18	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	2
岡山県	-	-	-	-	2	50	1	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	14
広島県	-	-	-	-	1	28	-	2	-	-	-	-	-	8	-	-	-	12
山口県	-	-	-	-	1	6	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	17
徳島県	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
香川県	-	-	-	-	1	4	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
愛媛県	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
高知県	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
福岡県	-	-	-	-	2	43	-	6	-	-	-	-	-	1	-	-	-	22
佐賀県	-	-	-	-	5	113	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
長崎県	-	-	-	-	-	22	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
熊本県	-	-	-	-	2	27	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
大分県	-	-	-	-	1	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
宮崎県	-	-	-	-	-	11	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
鹿児島県	-	-	-	-	-	10	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	7
沖縄県	-	-	-	-	2	18	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成14年29週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプト スポリジウム症		クロイツフェルト ・ヤコブ病		劇症型溶血性 レンサ球菌感染症		後天性 免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	33	-	-	-	104	2	70	1	56	7	457	-	2	3	64	-	-
北海道	-	1	-	-	-	34	-	1	-	4	-	4	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
山形県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	1	17	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	1	5	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	10	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	13	-	-	-	1	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	5	-	1	-	3	-	21	-	-	-	4	-	-
東京都	-	27	-	-	-	2	-	4	-	8	3	187	-	-	1	31	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	2	4	-	1	-	30	-	-	5	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	1	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	5	-	-	-	2	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	17	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	3	-	11	-	-	-	1	-	-
愛知県	-	1	-	-	-	-	-	5	-	5	1	25	-	-	-	2	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-	6	-	-	1	4	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	2	-	5	-	-	1	46	-	1	1	5	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	61	-	3	-	4	-	8	-	-	-	1	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	2	-	-	-	2	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	4	-	-	-	4	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-	5	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成14年29週

	髄膜炎菌性髄膜炎		先天性風疹症候群		炭疽		ツツガムシ病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		乳児ポツリヌス症		梅毒	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	5	-	-	-	-	1	111	1	29	1	7	-	-	-	-	6	303
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14
青森県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2
秋田県	-	-	-	-	-	-	1	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
山形県	-	-	-	-	-	-	-	8	-	1	-	-	-	-	-	-	-	4
福島県	-	-	-	-	-	-	-	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	4
千葉県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
東京都	-	1	-	-	-	-	-	4	1	10	-	-	-	-	-	-	2	31
神奈川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	15
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
静岡県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	6
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	16
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	2	61
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	1	-	-	-	-	-	16
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
島根県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1	-	-	-	-	-	3
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
広島県	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	2
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
大分県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	1	6
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	20	-	-	1	3	-	-	-	-	-	2
沖縄県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成14年29週

	破傷風		バンコマイシン耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発疹チフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	2	46	-	22	-	-	-	-	-	1	-	-	1	47	1	6	-	55
北海道	-	4	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	3	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	2
秋田県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山形県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	1	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
茨城県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1
栃木県	1	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3
千葉県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
東京都	-	3	-	5	-	-	-	-	1	-	-	-	13	-	1	-	-	8
神奈川県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
富山県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
静岡県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
愛知県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	2
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	2
大阪府	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	6
兵庫県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	4
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
鳥取県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岡山県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2
広島県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福岡県	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
佐賀県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
大分県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
鹿児島県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成14年29週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百日咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	118	0.03	597	0.20	2321	0.76	7913	2.61	4155	1.37	6591	2.17	1430	0.47	2537	0.84	29	0.01
北海道	12	0.05	26	0.18	231	1.56	207	1.40	259	1.75	141	0.95	75	0.51	104	0.70	1	0.01
青森県	-	-	2	0.05	23	0.55	29	0.69	100	2.38	94	2.24	55	1.31	25	0.60	2	0.05
岩手県	5	0.08	6	0.16	24	0.63	48	1.26	69	1.82	61	1.61	4	0.11	23	0.61	-	-
宮城県	3	0.03	4	0.07	37	0.63	268	4.54	174	2.95	317	5.37	28	0.47	58	0.98	-	-
秋田県	-	-	2	0.06	31	0.89	78	2.23	47	1.34	16	0.46	28	0.80	24	0.69	1	0.03
山形県	-	-	1	0.03	18	0.60	53	1.77	76	2.53	41	1.37	13	0.43	33	1.10	1	0.03
福島県	-	-	3	0.07	23	0.50	117	2.54	149	3.24	167	3.63	62	1.35	43	0.93	1	0.02
茨城県	-	-	20	0.27	48	0.65	136	1.84	129	1.74	127	1.72	67	0.91	42	0.57	1	0.01
栃木県	-	-	8	0.17	35	0.76	84	1.83	98	2.13	38	0.83	30	0.65	40	0.87	-	-
群馬県	-	-	3	0.05	40	0.65	115	1.85	72	1.16	50	0.81	48	0.77	43	0.69	-	-
埼玉県	1	0.00	43	0.27	142	0.89	459	2.87	325	2.03	591	3.69	98	0.61	139	0.87	-	-
千葉県	-	-	22	0.17	96	0.73	278	2.11	218	1.65	312	2.36	51	0.39	93	0.70	2	0.02
東京都	-	-	17	0.12	50	0.35	257	1.81	117	0.82	324	2.28	32	0.23	84	0.59	-	-
神奈川県	1	0.00	70	0.34	138	0.67	429	2.08	252	1.22	1256	6.10	102	0.50	189	0.92	2	0.01
新潟県	-	-	13	0.22	61	1.02	264	4.40	79	1.32	40	0.67	54	0.90	47	0.78	-	-
富山県	-	-	2	0.07	35	1.21	88	3.03	38	1.31	63	2.17	23	0.79	23	0.79	-	-
石川県	-	-	7	0.24	8	0.28	114	3.93	32	1.10	36	1.24	16	0.55	22	0.76	-	-
福井県	-	-	2	0.09	15	0.68	127	5.77	31	1.41	4	0.18	3	0.14	21	0.95	-	-
山梨県	1	0.02	3	0.12	12	0.48	29	1.16	15	0.60	11	0.44	2	0.08	17	0.68	-	-
長野県	-	-	20	0.37	71	1.31	189	3.50	116	2.15	86	1.59	75	1.39	50	0.93	-	-
岐阜県	-	-	6	0.13	30	0.64	43	0.91	83	1.77	44	0.94	19	0.40	26	0.55	-	-
静岡県	-	-	24	0.28	46	0.53	277	3.22	131	1.52	175	2.03	81	0.94	80	0.93	-	-
愛知県	-	-	39	0.21	121	0.66	381	2.09	193	1.06	517	2.84	63	0.35	156	0.86	4	0.02
三重県	-	-	13	0.29	33	0.73	176	3.91	65	1.44	31	0.69	39	0.87	45	1.00	-	-
滋賀県	-	-	30	0.94	23	0.72	53	1.66	39	1.22	39	1.22	10	0.31	24	0.75	-	-
京都府	1	0.01	9	0.12	30	0.39	247	3.25	90	1.18	55	0.72	23	0.30	43	0.57	3	0.04
大阪府	-	-	24	0.12	161	0.83	418	2.14	201	1.03	450	2.31	74	0.38	164	0.84	3	0.02
兵庫県	1	0.01	34	0.27	85	0.66	458	3.58	158	1.23	355	2.77	66	0.52	121	0.95	1	0.01
奈良県	-	-	-	-	9	0.26	85	2.43	43	1.23	105	3.00	15	0.43	29	0.83	2	0.06
和歌山県	-	-	5	0.16	13	0.42	62	2.00	47	1.52	163	5.26	17	0.55	25	0.81	-	-
鳥取県	-	-	2	0.11	18	0.95	63	3.32	12	0.63	67	3.53	18	0.95	25	1.32	-	-
島根県	-	-	-	-	6	0.26	57	2.48	9	0.39	20	0.87	12	0.52	18	0.78	-	-
岡山県	-	-	9	0.20	18	0.41	73	1.66	45	1.02	296	6.73	8	0.18	29	0.66	-	-
広島県	-	-	23	0.31	38	0.51	204	2.72	60	0.80	155	2.07	4	0.05	58	0.77	-	-
山口県	8	0.11	7	0.14	49	1.00	193	3.94	56	1.14	12	0.24	22	0.45	48	0.98	-	-
徳島県	2	0.05	3	0.13	29	1.26	42	1.83	37	1.61	19	0.83	7	0.30	23	1.00	-	-
香川県	-	-	3	0.09	22	0.69	104	3.25	30	0.94	110	3.44	4	0.13	25	0.78	-	-
愛媛県	-	-	17	0.44	67	1.72	161	4.13	32	0.82	21	0.54	20	0.51	33	0.85	-	-
高知県	-	-	5	0.16	16	0.52	55	1.77	24	0.77	51	1.65	5	0.16	19	0.61	2	0.06
福岡県	1	0.01	20	0.17	111	0.93	480	4.00	130	1.08	33	0.28	9	0.08	160	1.33	3	0.03
佐賀県	-	-	1	0.04	34	1.48	25	1.09	14	0.61	1	0.04	3	0.13	36	1.57	-	-
長崎県	-	-	3	0.07	16	0.36	135	3.07	33	0.75	-	-	10	0.23	30	0.68	-	-
熊本県	-	-	13	0.27	79	1.61	192	3.92	71	1.45	7	0.14	7	0.14	51	1.04	-	-
大分県	1	0.02	2	0.06	38	1.06	164	4.56	37	1.03	4	0.11	4	0.11	35	0.97	-	-
宮崎県	-	-	13	0.35	56	1.51	185	5.00	46	1.24	12	0.32	12	0.32	61	1.65	-	-
鹿児島県	4	0.04	17	0.28	32	0.53	201	3.35	49	0.82	20	0.33	9	0.15	40	0.67	-	-
沖縄県	77	1.33	1	0.03	3	0.09	10	0.29	24	0.71	54	1.59	3	0.09	13	0.38	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成14年29週

	風 疹		ヘルパンギーナ		麻 疹 (成人麻疹を除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		急性脳炎 (日本脳炎を除く)		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	47	0.02	11773	3.88	232	0.08	4289	1.41	11	0.02	633	1.00	1	0.00	3	0.01	230	0.49
北海道	3	0.02	193	1.30	2	0.01	121	0.82	-	-	36	1.24	-	-	-	-	-	-
青森県	1	0.02	180	4.29	16	0.38	100	2.38	-	-	11	1.00	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	160	4.21	-	-	159	4.18	-	-	17	1.42	-	-	-	-	-	-
宮城県	1	0.02	343	5.81	8	0.14	227	3.85	-	-	2	0.18	-	-	1	0.08	-	-
秋田県	-	-	110	3.14	1	0.03	79	2.26	-	-	2	0.29	-	-	-	-	-	-
山形県	1	0.03	105	3.50	1	0.03	100	3.33	-	-	1	0.13	-	-	1	0.10	6	0.60
福島県	-	-	254	5.52	11	0.24	178	3.87	1	0.08	14	1.17	-	-	-	-	-	-
茨城県	2	0.03	115	1.55	14	0.19	54	0.73	-	-	61	3.81	-	-	-	-	-	-
栃木県	1	0.02	315	6.85	4	0.09	109	2.37	-	-	15	1.25	1	0.14	-	-	-	-
群馬県	3	0.05	468	7.55	1	0.02	129	2.08	-	-	53	3.79	-	-	-	-	-	-
埼玉県	1	0.01	930	5.81	18	0.11	152	0.95	-	-	28	0.82	-	-	-	-	-	-
千葉県	3	0.02	914	6.92	16	0.12	134	1.02	1	0.03	34	1.00	-	-	-	-	3	0.23
東京都	1	0.01	534	3.76	11	0.08	85	0.60	-	-	25	1.79	-	-	-	-	2	0.08
神奈川県	3	0.01	1362	6.61	10	0.05	214	1.04	-	-	38	0.90	-	-	-	-	4	0.36
新潟県	-	-	320	5.33	1	0.02	103	1.72	-	-	9	1.00	-	-	-	-	4	0.33
富山県	2	0.07	140	4.83	1	0.03	53	1.83	-	-	3	0.43	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	30	1.03	-	-	30	1.03	-	-	4	0.57	-	-	-	-	1	0.20
福井県	-	-	122	5.55	1	0.05	8	0.36	-	-	1	0.33	-	-	-	-	2	0.33
山梨県	-	-	57	2.28	5	0.20	50	2.00	-	-	2	0.67	-	-	-	-	8	0.80
長野県	-	-	251	4.65	2	0.04	88	1.63	-	-	3	0.30	-	-	-	-	1	0.09
岐阜県	-	-	222	4.72	11	0.23	51	1.09	-	-	6	0.55	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	423	4.92	19	0.22	137	1.59	-	-	4	0.20	-	-	1	0.10	4	0.40
愛知県	3	0.02	786	4.32	24	0.13	162	0.89	1	0.03	17	0.49	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	279	6.20	-	-	54	1.20	-	-	1	0.08	-	-	-	-	8	0.89
滋賀県	-	-	50	1.56	1	0.03	24	0.75	-	-	1	0.14	-	-	-	-	16	2.29
京都府	-	-	221	2.91	1	0.01	44	0.58	-	-	14	0.78	-	-	-	-	1	0.17
大阪府	-	-	779	3.99	4	0.02	152	0.78	-	-	43	0.83	-	-	-	-	5	0.33
兵庫県	-	-	514	4.02	5	0.04	188	1.47	2	0.06	16	0.44	-	-	-	-	9	0.69
奈良県	-	-	98	2.80	-	-	53	1.51	1	0.11	4	0.44	-	-	-	-	10	1.67
和歌山県	-	-	164	5.29	-	-	67	2.16	-	-	2	0.50	-	-	-	-	8	0.73
鳥取県	-	-	43	2.26	-	-	49	2.58	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.20
島根県	1	0.04	23	1.00	-	-	35	1.52	-	-	1	0.33	-	-	-	-	-	-
岡山県	3	0.07	36	0.82	16	0.36	129	2.93	1	0.13	15	1.88	-	-	-	-	27	6.75
広島県	1	0.01	125	1.67	3	0.04	95	1.27	-	-	14	0.70	-	-	-	-	32	1.52
山口県	1	0.02	105	2.14	-	-	73	1.49	-	-	7	0.78	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	39	1.70	1	0.04	32	1.39	-	-	1	0.25	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	47	1.47	4	0.13	14	0.44	1	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	81	2.08	-	-	56	1.44	-	-	19	2.71	-	-	-	-	4	0.67
高知県	-	-	49	1.58	-	-	28	0.90	-	-	9	3.00	-	-	-	-	9	1.13
福岡県	11	0.09	334	2.78	9	0.08	121	1.01	-	-	39	1.50	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	33	1.43	3	0.13	15	0.65	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	1	0.02	41	0.93	2	0.05	83	1.89	3	0.38	12	1.50	-	-	-	-	1	0.08
熊本県	-	-	115	2.35	-	-	17	0.35	-	-	5	0.56	-	-	-	-	50	3.33
大分県	1	0.03	66	1.83	3	0.08	103	2.86	-	-	2	0.40	-	-	-	-	3	0.27
宮崎県	1	0.03	121	3.27	1	0.03	140	3.78	-	-	24	6.00	-	-	-	-	4	0.57
鹿児島県	1	0.02	71	1.18	2	0.03	127	2.12	-	-	12	2.00	-	-	-	-	6	0.50
沖縄県	1	0.03	5	0.15	-	-	67	1.97	-	-	6	0.60	-	-	-	-	1	0.14

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成14年29週

	マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻疹	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	66	0.14	10	0.02	8	0.02
北海道	1	0.04	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-
岩手県	3	0.15	-	-	-	-
宮城県	3	0.25	1	0.08	1	0.08
秋田県	4	0.50	-	-	-	-
山形県	3	0.30	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-
埼玉県	1	0.11	-	-	-	-
千葉県	3	0.23	5	0.38	2	0.15
東京都	1	0.04	-	-	3	0.12
神奈川県	2	0.18	-	-	1	0.09
新潟県	4	0.33	-	-	-	-
富山県	1	0.20	-	-	-	-
石川県	1	0.20	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-
山梨県	1	0.10	1	0.10	-	-
長野県	1	0.09	2	0.18	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-
静岡県	1	0.10	-	-	1	0.10
愛知県	3	0.23	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-
滋賀県	2	0.29	-	-	-	-
京都府	1	0.17	-	-	-	-
大阪府	5	0.33	-	-	-	-
兵庫県	1	0.08	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-
鳥取県	1	0.20	-	-	-	-
島根県	1	0.13	-	-	-	-
岡山県	1	0.25	-	-	-	-
広島県	2	0.10	-	-	-	-
山口県	1	0.13	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-
愛媛県	1	0.17	-	-	-	-
高知県	3	0.38	-	-	-	-
福岡県	-	-	1	0.07	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-
長崎県	1	0.08	-	-	-	-
熊本県	3	0.20	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-
宮崎県	4	0.57	-	-	-	-
鹿児島県	2	0.17	-	-	-	-
沖縄県	4	0.57	-	-	-	-

感染症週報 第4巻、第29号 平成14年8月2日発行
発行：国立感染症研究所

厚生労働省健康局結核感染症課
厚生労働省大臣官房統計情報部

事務局：国立感染症研究所感染症情報センター
〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1
TEL：03-5285-1111
FAX：03-5285-1129

URL：http://idsc.nih.go.jp/index-j.html

<国立感染症研究所 感染症情報センター>

http://www.mhlw.go.jp/

<厚生労働省>

http://www.forth.go.jp/

<旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所)>

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。